

1814年～1815年のウィーン会議と音楽ー

オペラ、ジングシュピール、バレエ

Music at the Congress of Vienna (1814-1815): Opera, Singspiel, and Ballet

ジェラルド・グローマー
Gerald GROEMER

1814年～1815年のウィーン会議と音楽ー

オペラ、ジングシュピール、バレエ

Music at the Congress of Vienna (1814-1815): Opera, Singspiel, and Ballet

ジェラルド・グローマー
Gerald GROEMER

キーワード ウィーン会議、歌劇、ジングシュピール、バレエ

要約

ウィーン会議が正式に開かれた1814年11月1日から1815年6月始めにかけて、ヨーロッパ各国の君主、指導者、代表者などがウィーンに集まり、長く続いた一連の戦争に終止符を打とうとした。彼らとその追随者たちはウィーンに滞在した間、ウィーンが誇る劇場において様々な歌劇、ジングシュピール、喜歌劇、パロディー、バレエなどを堪能する機会に恵まれた。本稿では、ウィーン会議開催中に如何なる劇場が存在し、どの演目が上演され、誰がそれを作曲・演奏したのか、そしてそれらをどのような聴衆がどう評価したのかについて考察する。

During the Congress of Vienna, which was formally opened on Nov. 1 1814 and terminated in June 1815, the heads of states and representatives of almost all European countries assembled in Vienna to hammer out a peace treaty that would put an end to the wars that had been plaguing the continent for years. While in Vienna, these leaders and those who accompanied them could attend performances of opera, singspiel, farces, parodies, and ballets at any of the many theaters of which the city was proud. This paper surveys the theaters in operation at the time, analyzes the composers, performers, works presented on stages, and examines the audiences and their evaluations of what was offered.

1795年にウィーンをはじめて訪れたK.ライツェンシュタイン (Karl von Reitzenstein、生没年不詳)は驚いて語る。ウィーン市民は他のドイツ語圏の人々とは異なり、音楽を単なる職人芸とは見なさず、音楽に対する情熱は「あらゆる場所・ものごとすべてを支配」していた。音楽に無関心な家庭はウィーンには存在せず、音楽は教育の重要な柱と見なされ、女性たちは音楽熱のあまりに、より重要であるはずの業を蔑ろにしてしまうほどである。そのため文人のみでなく、下級市民までも趣味のよい音楽を評価し、イタリアあるいはプラハ、ドレズデンなどドイツの主要都市の聴衆に引けをとらない。ハノーヴァーでは受けが悪いが、質のよい歌劇はウィーンで大あたりを取り、逆にウィーンで不成功に終わる陳腐な喜歌劇が、他国では大成功を飾る。ウィーンの人々はモーツァルトとバイシエロの難しい作品さえきちんと理解している、とライツェンシュタインは強調している。¹

その20年後の1814年から1815年、ヨーロッパ列強の君主はもちろん、各地に支配地を持つ高位の貴族、諸国と地域の外交官、ナポレオンと戦った軍司令官などが、このように音楽文化が大変重視されたウィーンに集まり、長く続いた戦争時代に終止符を打ち自他の安全保障を図り、ヨーロッパ大陸内の永続的な政治秩序を成立させることに腐心していた。開会式もなく、総会は一度も招集されず、出席者全員が一ヶ所に集まり交渉に臨むこともなく、正式な会議録も作成されず、ウォータールーの数

¹ Karl von Reitzenstein, *Reise nach Wien*, 244-247 頁。

日前に最終的な条約が署名された際にも、列強の1ヶ国の代表者が欠席したという、この妙な分散型会議の肝腎な仕事は舞台裏にて進められ、多くの取り決めも非公開であった。重要な話し合いは、出席者が政務のかたわらに訪れた大小の舞踏会与仮面舞踏会、乗馬競技会、音楽会、歌劇とジグシュピールが上演された場で行われた。² そこで、会議に参加した者たちは、具体的にどの劇場で、いかなる舞台芸術を鑑賞したのかについて少し検討してみたい。貴族階級は教養と知識に恵まれた人々が多かっただけに、会議のために特に上品で高レベルな音楽や演劇が作曲・演出されたと容易に想像されるが、果たしてそうであったのであろうか。とくにグルック、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンなどは「新しい芸術を作り上げた」ウィーンに縁の深い作曲家であるが、ヨーロッパ全土にて音楽の永久に「変わらない物差しである」と高く評価されたそれらの芸術家作品がどれくらい上演されたのかについて考えなければならない。³ 本稿では、会議が開かれた1814年11月から1815年6月までを中心に、ウィーンの劇場の現状、上演された演目の特徴、上演に対する聴衆の反応などを検討し、会議参加者たちが経験したウィーンの舞台芸術の実態を明らかにしたい。

外国要人のための特別なオペラ上演

ウィーン会議中における歌劇などの上演に関する情報を以下の一覧表にまとめたので、それに随時参照されたい。この一覧表から分かることは、一般に公開されオペラを上演した劇場、つまり入場券さえ買えばだれでも入場できる劇場は4軒存在した事である。しかし、ウィーン会議中には、この4軒で催された歌劇やバレエなど以外にも、会議出席者のために、非公開で、他の劇場においてもプライベートな興行が行われたようである。まずそれに目を向けてみよう。

一般に公開されていない施設の一つに、1747年開設され、1809年にナポレオンがシェーンブルン宮殿に総本部を置いた際に改築された、シェーンブルン宮殿劇場 (Schloßtheater Schönbrunn) がある。会議が開幕する直前の1814年10月11日に、ケルトナートーア劇場 (後述) 所属の歌劇団が、「フランスのモーツァルト」と称されたF.A. ボワエルデュー (François-Adrien Boieldieu, 1775年～1834年) 作曲の喜歌劇 (オペラコミック、*opéra-comique*) 『パリのジャン』 (*Jean de Paris*, 独名 *Johann von Paris*) を各国の来客のために舞台にかけ、このイベントのために作られたバレエも作品の中に挿入された。このオペラが選ばれた理由として、ボワエルデューの音楽は優雅でわかりやすく、ケルトナートーア劇場の歌手とオーケストラにとってはすでに十八番であり、『フィデリオ』のように為政者への非難の要素もなかったこともあるが、フランス系の歌劇として会議の中心となった国であるフランスの文化的優越性を認める政治的目的も背後に潜んでいたかもしれない。いずれにせよ、舞台を観終わった来賓は宮殿敷地内に設けられた「オランジェリー」(もともとは柑橘類の樹木を冬季に養成するためにつくられた温室) に進み、3,000本の蝋燭に照らされたホールでの贅沢な晩餐会を楽しんだ。⁴

1815年1月22日にもシェーンブルン宮殿劇場で歌劇が上演されている。この際にはウィーンを訪れた各国の君主・代表者などほぼ全員がオーストリア皇帝主催の大 きょうこう 櫓行に参加し、皆が堂々と都心からシェーンブルン宮殿へ移動する光景をウィーン市民の多くが目にした。その一部は政府の役員であっ

² 次々とウィーンに到着した会議参加者と関係者の行動について、*Wiener Zeitung* はもちろん、当時の多くの雑誌も詳しく報告している。例えば1814年の *Friedensblätter*, 150, 154, 158, 162, 166, 169-170, 173-174, 182, 186, 189-190, 194, 197-198, 202, 205-206, 210, 216, 223-224, 228 頁に詳しい記述が見られ、1814年の *Morgenblatt für gebildete Stände* (以下 *Morgenblatt* と略する) にも多数の記事が見られる。また *Feyerlichkeiten bey der Rückkehr Sr. Maj. Des Kaisers von Osterreich nach Wien im Jahre 1814* (以下 *Feyerlichkeiten* と略する) も特に詳しい。

³ *Allgemeine musikalische Zeitung* (以下 *AmZ* と略する)、16巻37号(1814年9月14日)、614頁; *Mittheilungen aus Wien*, 1833年1巻、90頁。

⁴ *Friedensblätter*, 1814年10月18日(47号)、194頁; *Feyerlichkeiten*, 66-67頁。いくつかの音楽アンサンブルも配置されたこのホールは長さ190メートル、幅8メートル、高さも8メートルの豪華な造りであった。詳しい描写には *Allgemeine Zeitung München*, 1814年10月18日(291号)、1164頁にある。

ウィーン会議中 (1814年11月～1815年5月) の主な歌劇・バレエなどの上演

| 年月日 | 場所・ジャンル | 作曲家、演目 | 上演者 | 再演・備考 | 出典 |
|-------|---|---|---|---|--|
| 1814年 | TK=Theater am Kärnthnerthor; TJ=Theater in der Josephstadt; TW=Theater an der Wien 人名はジングシュピール、歌劇などの場合は歌手であり、バレエの場合はダンサーである。資料に苗字のみが明記されている場合は推定される名前を付した。不明な場合は♂♀の記号で性別を明記した。 | | | | |
| 11月1日 | TK, 1幕の Singspiel | Adalbert Gyrowetz 作曲, August Kotzebue 作詞, <i>Der Summtrack</i> | | 11月9, 28日, 12月9, 17日, 1月21, 28日, 5月13, 19, 30日に再演 | 11:505, 548, 580; 16:1218, 1250, 1326; 17:112, 528, 552, 592; 19: 20:323 |
| 同上 | TK, 2幕のバレエ | Étienne Mehul 作曲, Pierre Gabriel Gardel 振り付け, <i>Die Tanzsucht</i> | Emilia Bigottini, Aimée Apoline Petit に代わり Magdalena de Caro, Antoinette Pfeiffer; Antonin (♂), Salvatore Viganò, Volange(♂), André-Jean-Jacques Deshayes, Rostier [Jean Rozier]?, Carl [?] Aichinger, ♀ 10月21, 22日も同 | 10月21日初演。10月22日, 11月9, 26日, 12月19日に再演。以下11月4日も参照 | 5:828; 10:28; 11:506; 511, 586; 15:77; 16:1218, 1410; 19: 20:402 |
| 11月2日 | TK, Singspiel | Étienne Mehul 作曲, Jean Nicolas Bouilly 原作, Joseph von Seyfried 作詞, <i>Die beyden Füchse, oder Je toller je besser</i> | 11月26日に Sebastian Meier, Hönig (♀), Schmidtmann(♂), Joseph Caché 他 | 11月2, 18, 26日, 12月15日, 1815年1月3, 18日に再演 | 5:768; 11:505, 519, 547, 579; 12:83; 16:1222, 1286, 1318, 1394; 17:12, 68, 72; 19: 20:249 |
| 同上 | TL, 2幕のバントマイム | Franz Volkert 作曲, Karl Hampel 振り付け, <i>Harlekin als Apothekejunge (Der Apothekejunge)</i> | | 12月16日の再演にデンマーク国王が出席。1815年1月8, 27, 2月7, 26日, 3月1か, 14日, 5月26日に再演。3月1日の再演にプロイセン国王が出席 | 11:479; 13:31, 220, 221; 16:1222, 1398; 17:32, 152, 228, 282, 576 |
| 同上 | TL, 1幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, J. Wohl 作詞, <i>Der Kosack in London</i> | | 11月29日の再演にプロイセン国王が出席, 12月1日, 1815年1月7, 8日再演 | 13:99, 220; 16:1222, 1330, 1338; 17:28, 32 |
| 同上 | TW, 2幕の heroisch-komische Oper | W.A. Mozart 作曲, <i>Don Juan (Don Giovanni)</i> | Anton Forti, Anna Maria Neumann (Donna Anna), ^c Theresia Tremli (Zerlina), Carl Weimüller (Leoporello), Julius Radichni (Don Ottavio), Demmer (Mazetto), ^d Hönig (♀ Elvira)他 | 11月17日, 12月7, 15日 (Mazetto=Johann Weinkopf), 1815年3月30日, 4月4日, 5月11, 27日に再演, 3月30日に Antonia Campi, [Henriette] Forti [旧姓 Teimer]が Zerlina として出演(それ以前は数ヶ月体調不良で活動中止) | 5:768; 6:192; 7:300; 8:23; 10:384; 11:519, 579; 15:158; 16:1218, 1222, 1278, 1362, 1394; 17:352, 520, 580; 19 |
| 11月3日 | TK, Singspiel | L. v. Beethoven 作曲, Joseph Ferdinand Sonnleithner 作詞, <i>Leonore, oder Der Triumph der ehelichen Liebe (Fidelio)</i> | Ignaz Saal, Anton Forti, Julius Radichni, Anna Milder-Hauptmann, Carl Weimüller, Anna Bondra, Joseph Frühwald, 後 Johann Michael Vogl | 11月22, 27日, 12月27日, 1815年1月3, 27日, 2月18, 26日, 3月10日, 4月9, 21日, 5月9, 12日に再演 | 5:768; 11:505, 545, 547; 12:21, 63; 15:82-83; 16:1226, 1302, 1322; 17:108, 196, 228, 276, 392, 440, 512, 524; 19: 20:272-3 |

| | | | | | |
|----------|--|---|--|---|---|
| 同上 | TJ, TL, 2 幕の Quodlibet | Franz de Paula Roser 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Johann von Wieselburg</i> | TJ: Louis Schätzl, 5 月 3 日に TL にも上演 (Clara Rothe, Eleonore Seidl, [Joseph?] Kastner 出演) | 1815 年 5 月 3 日 TL にて再演。12 月 29 日に TJ にて再演。その際プロイ セン国王が出席 | 11:505; 12:22; 13:91, 222; 16:1226; 17:488 |
| 11 月 4 日 | TK | “Ouverture” (Étienne Mehul 作曲 <i>Hadrian</i> より); Joseph Mayseder (vl), “Variationen”; ヴァレエ “Die Tanzsucht” | Joseph Kloiz (1785-1830) の大きな絵画 “Der Brand von Moskau” も展示された (7:275) | 11:506; 15:48; 16:1230 | |
| 同上 | TL | Ferdinando Paër 作曲, Giuseppe Foppa 作 詞, <i>Der lustige Schuster, oder Die verwandelten Weiber</i> | Anton Schuster が主役。デンマーク国 王が出席 | 7:300; 11:506; 13:220; 16:1230 | |
| 同上 | TW, 2 幕の komische Oper | François-Adrien Boieldieu 作曲, Claude Godard D'Aucourt de Saint-Juste 原作, Joseph von Seyffried 作詞, <i>Johann von Paris</i> | Anna Maria Neumann (旧姓 Sessi), Anton Forti, Franz Wild, [Theresia] Tremel [旧姓 Bondra], Sebastian Meier, [Christian] Joseph Demmer, Rupert Segatta | 5:768; 6:286; 12:193; 16:1230; 17:568, 588; 19 | |
| 11 月 5 日 | TK, 3 幕の Singspiel | Joseph Weigl 作曲, <i>Die Schweizerfamilie</i> | Ignaz Saal, Demmer d. ä. または d. J., Carl Weimüller, Anna Maria Neumann-Sessi, Anna Karl, Franz Dunst, Joseph Frühwald 等。* 1 月 5, 9 日に Elise Pfeiffer 出演。† 1 月 15 日に Richard Boll 出演。12 月 1 月に Anna Milder- Hauptmann, 5 月 26 日に Graz の Wilhelmine Fischer, Karoline Seidler-Wranitzky 他出演 | 2:116; 4:60, 63; 5:768; 6:68, 278; 11:506, 527, 551; 12:22, 63, 81, 82; 16:1234, 1294, 1338, 1370, 1450; 17:36, 60, 124, 240, 576; 19; 20:326-7 | |
| 同上 | TW, 2 幕の dramatischer Galimathias mit Musik | Ignaz Xaver von Seyffried 作曲, Ignaz Franz Castelli 作詞, <i>Roderich und Kunigunde, oder Der Eremit von Berge Prazzo</i> | 役者・歌手の Karl Erdmann Rüger, Friedrich Hennig, Sebastian Meier, Demmer(♂), Schmidtmann(♂), Anton Hasenhut, Joseph Caché, Louise Weber, Perinet [Joachim Perinet の妻 Victoria Wanny か] が出演 | 5:732, 768; 7:243-4, 300; 11:506-8, 546, 554; 12:64; 16:1238, 1254, 1310, 1358; 19 | |
| 11 月 6 日 | TK, 2 幕のバレ エ, ウィーン初 演 | Louis-Luc Loiseau de Persuis 作曲, Louis-lacques Milon 振り付け, <i>Nina, oder Die Wahnsinnige aus Liebe</i> , * 11 月 12 日にも TL で <i>Nina</i> が上演(11:514) | Emilia Bigottini, Jean-Louis Aumer, André-Jean-lacques Deshayes, Antoinette Pfeiffer, Salvatore Viganò, Franz [?] Aichinger, Antonin (♂), Sophie Chevigny, Aimée Petit, 12 月に Rostier [Jean Rozier] 他 | 1:865-66; 4:57; 5:724, 736, 768, 812; 7:240, 263, 295, 319- 20; 9:1144, 1180; 11:494-5, 510-1, 528, 546, 548, 553, 554, 580; 12:18; 15:51; 16:1238, 1242, 1250, 1262, 1282, 1298, 1310, 1326, 1354, 1358, 1382, 1402, 1418; 19; 20:390-1 | |

| | | | | | |
|--------|---|--|---|--|--|
| 同上 | TL, 2幕のバント マイム | Franz Volkert 作曲, Karl Hampel 振り付 け, <i>Der siegende Amor</i> | | 11月18, 25, 27, 29日, 12月1, 6, 8, 10, 11, 19, 26, 28日, 1815年1月1, 6, 15, 20, 30, 31日, 2月6, 23日, 5月2, 4, 24 日再演。12月6, 19日にヴェルテンベ ルグ国王フリードリヒ1世が出席 | 7:300; 11:527, 554, 578, 579, 587; 12:21, 63, 82; 13:136, 220; 15:83; 16:1238, 1286, 1314, 1322, 1330, 1338, 1358, 1366, 1374, 1378, 1434, 1442; 17:4, 24, 60, 80, 120, 124, 148, 216, 484, 492, 572 |
| 同上 | TJ, 3幕 | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Heinrich der Stolze, Herzog von Sachsen</i> | Seeligmann (♀), Johann Joseph Nouseul, Eduard Stein, Erdmann (♂), Ferdinand Raimund | 11月7日, 1815年3月6日に上演 | 11:511; 16:1238; 17:160 |
| 11月8日 | TK, 2幕の komische Oper | François-Adrien Boieldieu 作曲, Claude Goddard D'Aucourt de Saint-Juste 原作, Ignaz Franz Castelli 作詞, <i>Johann von Paris</i> | Theater and der Wien のメンパー だが Therese Tremml と Carl Weinmüller も出演。 Anna Maria Neumann-Sessi, Franz Wild, ⁹ Anton Forti, Josefine Demmer, Joseph Handl. 後に Cathinka (Katharina) Buchwieser, ¹ Karoline Seidler-Wranitzky, Demmer d.ä., Elise Pfeiffer (1815年1月4, 11 日) | 11月13日, 12月8, 13, 20, 28日, 1815 年1月1, 4, 11日などに再演 | 2:114; 3:58; 4:60, 63; 6:12, 278; 8:23; 11:511-12, 554, 579; 12:21, 63, 81, 193; 15:92; 16:1246, 1366, 1386, 1414, 1442; 17:4, 16, 44; 19; 20:292- 3 |
| 同上 | TL, 1幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Karl Meisl 作詞, <i>Der Grenadier</i> , oder <i>Die Müller-Familie</i> | | 11月19日に再演 | 11:511; 16:1242, 1290 |
| 同上 | TL, 2幕の mythologische Karikatur | Ferdinand Kauer 作曲, Karl Meisl 作詞, <i>Orpheus und Euridice</i> , oder <i>So gehts im Olympus zu</i> | | 4月7日に上演 | 11:511; 16:1242; 17:384 |
| 11月9日 | TL, 5幕の Schauspiel mit Gesang | Wenzel Müller 作曲, Christian Heinrich Speiß 原作, R. F. Hensler 作詞, <i>Der Alte Ueberall und Nirgendts</i> , 「その1」 | | TJにも5月1日(6日か), 7日に上演。 11月10日「その2」TLで上演 | 8:284; 16:1250, 1254; 17:496, 504 |
| 11月11日 | TW, バレエ | Ernest Louis Müller 作曲か, Louis Antoine Dupont 振り付け, <i>Telemach auf der Insel der Kalypto</i> | André-Jean-Jacques Deshayes, Emilia Biggotini, Aimée Petit | 12月14日再演(最終回)。その際は満 員御礼。両皇帝妃、バイエルン国王、 プロイセン国王、国内外の諸侯が出席 | 7:308; 16:1258, 1390 |
| 11月13日 | TK, 3幕の Singspiel | Ferdinando Paër 作曲, Giuseppe Carpani 作詞, <i>Camilla</i> , oder <i>Das Burgverließ</i> | Hönig(♀), Anton Forti, Thekla Demmer, Julius Radtich 他 | 11月16, 23, 29日, 12月20, 31日に再 演 | 11:518, 549; 12:17; 16:1266, 1278, 1330, 1454; 19; 20:253 |
| 同上 | TL, バロケイト musikalisches Quodlibet, 1幕 | Ferdinand Kauer 作曲, August Kotzebue 原作, Matthias Franz Perth 作詞, <i>Antoniüs und Cleopatra</i> (10月29日からTLで上 演、すでに1814年2月25日よりTJ で上演) | | 11月18, 25, 27日, 12月8, 11, 19か, 26, 30日, 1815年1月1, 15日, 2月7日, 4 月2日, 5月4, 10日に再演。11月 11(13か)日プロイセン国王が出席。12 月19日にヴェルテンベルグ国王フリ ードリヒ1世が出席 | 12:63; 13:220; 16:1266, 1286, 1314, 1322, 1366, 1378, 1434, 1450; 17:4, 60, 148, 364, 492, 512 |
| 同上 | TJ | Wenzel Müller 作曲, Leopold Huber 作 詞, <i>Der eiserne Mann</i> , oder <i>Die Drudenhöhle im Wienerwald</i> | | プロイセン国王が出席。11月14, 17 日, 12月14日再演。11月14日の再演 に「ある君主たち」が出席 | 11:515, 519, 579; 16:1266, 1270 |

| | | | | | |
|--------|---|---|--|---|--|
| 11月14日 | TK, 2幕の Singspiel | Adalbert Gyrowetz 作曲, Johann Emanuel Veith 作詞, <i>Der Augenarzt</i> | Carl Weimüller, Franz Dunst, Anton Saal, Anna Maria Neumann, Demmer d. J., Anna Karl, Anna Bondra, [Theresia] Tremel [旧姓 Bondra]他; 1月14日にElise Pfeiffer, 5月にKaroline Seidler-Wramitzky が出演 | 1815年1月14日, 5月17, 21日に再演。Pfeifferは以前その役を演じたCecillie Laucherに及ばない | 2:116, 422; 4:60, 63; 5:768; 12:82; 16:1270; 17:56, 540, 560; 19: 20:242-3 |
| 同上 | TW, Posse mit Gesang | フランス語の原作による; Anton Friedrich Fischer 作曲, <i>Das Hausgesinde</i> | Sebastian Meier, Caroline Hornick 他 | 1815年1月14日, 2月21日, 3月10日か再演。同年1月15, 16日, 3月15日かの第2部, <i>Der gebesserte Lorenz</i> 上演 | 16:1258; 17:56(1月14日 Burgtheaterの間違いか); 60; 19 |
| 同上 | TW | Daniel Steibelt 作曲, Louis Antoine Dupont 振り付け, <i>Der blöde Ritter, oder Die Macht der Frauen.</i> | Magdalena Treitschke de Caro, Paolo Rainoldi, Aichinger 親子他 | 入場券に値上げあり。11月16日の再演は Treitschkeの最後の出演。後TKにも上演, 以下1月5日参照 | 11:515, 518; 16:1270; 1278; 19: 20:365 |
| 11月17日 | TJ, 2幕の heroisch komische Oper | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Prinzessin Eigensinn und König Bröselbart</i> , 初演 | Louise Gleich, Stadler (♂), Elzner (♂), Karl Seeligmann (1月) | 11月21, 23, 24, 27, 28日, 12月2, 4, 9, 14, 16日, 1815年1月11, 17日, 4月8日に再演 | 7:300; 11:528, 545, 546, 547, 548, 553, 555; 12:81-2, 83; 16:1282, 1298, 1302, 1306, 1322, 1326, 1342, 1350, 1370, 1390, 1398; 17:44, 388 |
| 11月18日 | TW, 3幕の Feenspiel mit Musik, Chören und Tänzen | Johann Nepomuk Hummel 作曲, Franz Xaver Carl Gewey 作詞, <i>Die Exelshaut oder Die blaue Insel</i> | Josefine Demmer, Perinet [Victoria Wammy か], Demmer (♂), Schmidtmann(♂)他多数 | 1815年1月29日, 5月9日かに再演 | 16:1286; 19 |
| 同上 | TJ, 3幕の歌付き の愛国主義的演 劇 | Franz de Paula Roser 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Der Kampf fürs Vaterland</i> | Max Ferdinand Neukäufer, 5月6日にNeukäufer, Eduard Stein, Ferdinand Rosenau, Katharina Schätzl, Anton Schuster, Wenzel Swoboda, Johann August Stöger 他 | 1815年5月6, 7, 8日TLで再演 | 8:284; 11:527; 12:175-6; 13:93, 222; 16:1286; 17:496, 504, 508 |
| 11月19日 | TL, 2幕の große komische Oper | Wenzel Müller 作曲, Korzeube (Menninger?) 原作, Joachim Perinet 作詞, Karl Hampf 振り付け, <i>Die Prinzessin von Kakambo</i> 初演 | Joseph Blacho | 不詳, 11月20, 21日, 1815年1月3日再演。11月21日の再演にプロイセン国王が出席 | 1:866; 7:300; 11:527-8; 12:25-6, 63; 13:121, 220; 16:1290, 1294, 1298; 17:12 |
| 同上 | TK | Michael Umlauf 作曲, Joseph Marius von Babo 作詞, <i>Der [deutsche] Grenadier, oder Die Medaille</i> | Franz Dunst, Carl Weimüller, Anna Bondra, Theresia Tremel, Johann Nepomuk Scheuble, Ignaz Saal 他 | 2月15日に再演 | 11:527; 16:1290; 7:160, 184; 19; 20:283 |
| 同上 | TK, アジア的 Divertissement, バレエ | Cesare Bossi 作曲か, <i>Zephyr und Flora</i> (Jean-Louis Aumer 振り付け) | André-Jean-Jacques Deshayes, Emilia Bigottini, Aimée Petit, Julie Aumer, Theodore Aumer, Jean-Louis Aumer, André-Jean-Jacques Deshayes, Rosier [Jean Rozier], Volange (♂), Antonin(♂) 等 | 1815年1月16, 19日, 2月9, 15, 25日, 3月9, 31日, 4月8, 15日, 5月4日に再演。1月13(16か)日にAntoninとBigottini 帰国のため, RosierとAumer 出演。3月9日にトスカカーナの第一バレーナーであるGhinettiが出演 | 2:116; 3:55; 4:61; 6:41, 42, 232; 7:90; 8:183; 11:527; 12:82, 83; 15:57-58; 16:1290; 17:52, 64, 76, 160, 224, 272, 356, 388, 416, 492; 19; 20:409-10 |

| | | | | | |
|--------|---|--|--|--|---|
| 11月21日 | TW | W. A. Mozart 作曲, <i>Die Zauberflöte</i> | Anton Forti (Sarasstro), Julius Radtchi (Tamino), Therese Rosenbaum (後の女王), Gned (Papageno)他 | 12月5日, 1815年1月3, 5, 18日, 5月22日に再演。1815年1月5, 18日, 1815年1月18日, 1815年1月18日 Philipp Matthias Teimer(Sarasstro) | 5:768; 8:23; 11:528, 553; 12:63, 83; 16:1298, 1354; 17:12, 20, 72; 19 |
| 11月23日 | TW, 3幕のSingspiel; | Niccolò Isouard 作曲, Charles Guillaume Etienne 作詞, <i>Aschenbrödel</i> ; Louis Sina 指揮; 同じ演目は4月10日 TW にも上演, Pesth の劇場より Rosenfeld (♂) が出演 | Cathinka Buchwieser, Höning(♀), Josefine Demmer, Franz Wild, Sebastian Meier, Johann Weinkopf 他。後にパレエ挿入, 1815年1月22日に Rosier [Jean Rozier], [Francesca] De Caro, Aumer (♀)他 | 11月30日, 12月9日, 1815年1月6, 7日, 2月1日, 4月10, 12日, 5月13日に再演。1月22日の大権行の後, Schönbrunn の劇場に再演(17:85, 94; 18:139) | 2:117, 354; 6:28; 8:44, 79, 243; 10:488; 11:550, 554-5; 12:64, 143; 15:92; 16:1306, 1370; 17:28, 128, 396, 528; 19 |
| 11月24日 | TK, 2幕のSingspiel | François-Adrien Boieldieu 作曲, Auguste Creuzé de Lesser, Jean Roger 原作, Ignaz Franz Castelli 作詞, <i>Der neue Gutsherr</i> | Demmer d. ä, Demmer d. j., Theresia Tremil, [Joseph?] Caché 他 | 11月30日, 12月6, 19日, 1815年1月10, 21, 26日, 2月3, 25日, 3月3, 9, 21日, 5月30日に再演 | 3:54; 11:546, 550, 554, 586; 12:81; 16:1310, 1334, 1358; 17:84, 104, 208, 224; 19; 20:310 |
| 11月25日 | TK, 3幕のtragédie lyrique (große Oper) | Gaspard Spontini 作曲, Victore-Joseph Étienne de Joty 作詞, <i>Die Vestalin</i> | Anna Bondra, Cathinka Buchwieser, Anton Forti, Ignaz Saal, Deville (♂), 1 後 Anna Maria Neumann, Franz Wild, Johann Michael Vogl, Karoline Seidler-Wranitzky, Julius Radtchi 等出演, 5月31日にグラーツの劇場の Wilhelmine Fischer 出演。 | 12月3日, 1815年2月4, 12, 23日, 3月6, 15, 29日, 4月8, 23, 27日, 5月3, 15, 31日に再演。序曲も12月9, 20日に großen Redoutensaal における演劇上演・絵画展示の際に演奏された(18:118, 124) | 1:866; 2:196; 4:61, 63-4; 5:764; 6:114; 7:295; 8:283; 11:546, 552; 12:86; 15:183; 16:1314, 1346; 17:140, 168, 216, 348, 448, 464, 488, 532, 596; 19; 20:340-1 |
| 11月26日 | TW, dramatisches Gedicht | Friedrich Ueber, Ignaz Xaver von Seyfried 作曲, August Klingemann 作詞, <i>Moses</i> | 2幕のパレエに Emilia Bigottini, Aimée Petit, Antonie Pfeifer, Viganó(♀), m Julie/Theodore Aumer, André Deshayes, Antonin(♂), Salvatore Viganó 出演 | 慈善興行 | 1:788; 2:269; 16:1318; 19 |
| 同上 | TK, 3幕のFarce mit Gesang | Virgil 作詞, Karl Ludwig Giesecke 改編, <i>Der travestirte Aeneas</i> | Demmer(♂), Joseph Caché, Perinet [Victoria Wammy か]他 | Josefine Demmer 体調不良。11月28日, 1815年2月4日再演 | 16:1322, 1326; 19 |
| 11月30日 | TK, 1幕のオペ, 初演 | [Conradin] Kreutzer[11:550にPersuis]作曲, Jean-Louis Aumer 振り付け, <i>Myrsile und Anteros, oder Amors Macht</i> | Emilia Bigottini, Theodore Aumer, Aimée Petit, Antonin(♂), André Deshayes 他 | 不評, 12月2日再演。5:776にも作曲者は Persuis とある。再演の際 Aimée Petit と Aumer が転倒し怪我 | 1:866; 4:58; 5:776, 788; 7:295; 11:550, 551; 16:1334, 1342; 19; 20:388 |
| 同上 | TL, 4幕のösterreichisches Volksmärchen mit Gesang | Wenzel Müller 作曲, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die Teufelsmühle am Wienerberge</i> | Ferdinand Rosenau, Wenzel Swoboda, Caché(♀); 4月に Mellany (♂) 出演, Willar (♂) アビュー | 12月12日, 1815年1月2, 18日再演。4月某日, 5月1日にプロイセン国王が出席。1815年4月8日に TJ にも上演 | 8:243; 11:579; 12:63, 147; 13:142, 222; 16:1334, 1382; 17:8, 72, 480 |
| 同上 | TJ, 3幕のmusikalisches Quodlibet | Ignaz Xaver von Seyfried 作曲, Matthäus Stegmayer 作詞, <i>Rochus Pumpernickel</i> | | 12月2日, 1815年1月3日, 2月6, 23日, 3月7日, 4月8日, 5月21, 31日に TW にも上演 | 16:1334, 1342; 17:148, 360, 596, 19 |

| | | | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|--|---|---|--|
| 12月3日 | TL, 3幕の喜劇 | Ignaz Schuster 作曲, Carl A. Wiedeman 作詞, <i>Die verkehrte Welt</i> , 初演 | Ignaz Schuster のための上演。 Therese Sartory, Schmitt (♂), Gottfried Ziegelhauser, Antonia Weiß, August Lippert, Michael Fenzl, Katharina Schätzl | アルベルト公爵、デンマーク国王等が出席。Schuster が 3000fl の収入を得た。12月4, 5, 7, 8日に再演 | 2:45; 8:23; 11:51, 6, 55, 2, 553, 554; 13:220; 16:1346, 1350, 1354 |
| 12月4日 | TK, 2幕のSingspiel | Ferdinando Paër 作曲, Giuseppe Foppa 作詞, <i>Der lustige Schuster, oder Die verwandelten Weiber</i> | Franz Dunst, Cathinka Buchwieser, Sebastian Meier, Theresia Tremel, Johann Nepomuk Schelble, Johann Weinkopf, Josefine Demmer 他 | 12月7, 16, 27日, 1815年1月12, 24日, 2月5, 14, 19日に再演 | 11:553, 554, 579; 12:82; 16:1362, 1398, 1438; 17:48, 96, 144, 180, 200; 19: 20:302 |
| 12月5日 | TL, 3幕のromantisches Volksmärchen | Wenzel Müller 作曲, Hensler 作詞, <i>Der Teufelsstein in Mödlingen</i> | | 12月5, 6, 8日, 1815年1月16日, 2月27日にも再演 | 2:118; 8:23; 11:554; 12:83; 16:1354, 1358, 1366; 17:64, 232 |
| 12月7日 | TJ, 2幕のSingspiel | Wenzel Müller 作曲, Joachim Perinet 作詞, <i>Das Neu-Sonntagskind</i> | Stadler (♀) デビュー、評論家に大不評 | TL にも上演、以下3月29日も参照 | 11:554; 16:1362 |
| 12月10日 | TK, 3幕のSingspiel | Joseph Weigl 作曲, Jean Nicolas Bouilly 原作, George Friedrich Treitschke 作詞, <i>Die Jugend Peter des Grossen</i> 初演 | Anton Forti, Ignaz Saal, Karl von La Roche, Carl Weimüller, Anna Milder-Hauptmann, Anna Bondra, Anna Karl, Demmer d. ä, Demmer d. j., Joseph Frühwald 他 | 満員御礼、しかし不評。12月11, 14, 18, 26日, 1815年1月2, 8日再演 | 2:44; 4:56; 5:803-4, 808; 7:314-5, 319; 8:23; 10:28; 11:565-6, 578, 579, 586; 12:21, 63, 64; 16:1374, 1378, 1390, 1406, 1434; 17:8, 32; 19: 20:294 |
| 同上 | TJ, 合唱付きの演劇 | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 歌詞改作, <i>Bertha von Lilitenstein</i> oder <i>Die teutschen Ritter in Palästina</i> | Kindler (♂), Louise Gleich, Ferdinand Raimund, Max Neukäufler, Eduard Stein, Kranz (♂) | 12月19, 20, 21, 26, 27, 28, 30日, 1815年1月3, 8, 16, 25日, 2月11, 17日, 3月7日, 4月5日に再演 | 8:24; 11:587-8; 12:18, 19, 21, 22, 63, 64, 83; 16:1410, 1414, 1418, 1434, 1438, 1450; 17:12, 32, 64, 100, 168, 192, 264, 376 7:320 |
| 12月22日～12月26日、全ての劇場クリスマスのため休業 | | | | | |
| 12月29日 | TK, 3幕のSingspiel | Giovanni Paisello 作曲, Giovanni Battista Casti 作詞, <i>König Theodor in Venedig</i> | Anton Forti, Joseph Gottdank, Johann Weinkopf, Sebastian Meier, Franz Wild, Anna Bondra, Höning (♀) 他 | 1815年1月6, 29日, 2月3日に再演 | 12:64; 16:1446か; 17:24, 116, 136; 19 |
| 12月30日 | TJ, 4幕のSchauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Christian Heinrich Speiß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die Löwenritter, その1</i> | | 16:1450に <i>Bertha von Lilitenstein</i> 上演(以上12月10日参照)とある。1815年1月21, 22, 23日再演。「その2」は1815年1月28日に同所に上演 | 2:119; 8:79; 17:84, 88, 92 |
| 12月31日 | TL, 1幕のPosse mit Gesang | 作曲不詳, Andreas Joseph von Guttenberg 原作, Joachim Perinet 作詞, <i>Das Neujahrs Geschenk in der Schachtel</i> | | | 8:23; 16:1450 |
| 1815年 | | | | | |
| 1月5日 | TK, バレエ | Daniel Steibelt 作曲, Louis Antoine Dupont 振り付け, <i>Der blöde Ritter, oder Die Macht der Frauen</i> | Francesca de Caro, Emilia Biggottini, Rosier [Jean Rozier], Aichinger 親子, Paolo Rainoldi 他 | 評論家に不評。1月7, 10, 21, 26日, 2月1日再演。Rosier は最近ウィーンにきたフランス人。Bigottini の報酬は贈り物を含めて約20,000fl.に及ぶ | 2:115; 4:63; 8:79; 10:212; 12:63, 64, 81; 15:92; 17:20, 28, 40, 104, 128; 19 |

| | | | | | |
|-------|--|---|--|---|---|
| 同上 | TJ, 2 幕の Karikatur-operette | Wenzel Müller 作曲, Philipp Hafner 原作, Joachim Perinet 作詞, <i>Die Belagerung von Ipsilon</i> , oder <i>Eva Kathel und Schmuadi</i> Johann Schenk 作曲, <i>Der Dorfbarbier</i> | Caroline Hornick, Joseph Gotttdank, Carl Weimmüller, Friedrich Baumann, Demmer d. ä. 他 | 1月5, 6, 14, 17, 18, 24日, 2月7, 15日, 3月8, 15日, 4月24日に再演 | 2:118; 8:79; 17:20, 24, 52, 68, 72, 96, 148, 184, 268, 296, 452 |
| 1月7日 | TK, 2 幕の Singspiel | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Der Mohr von Semegonda</i> , その1 | Karl Seeligmann, Seeligmann (♯), Kindler (♯), Eduard Stein, Johann Landner, Joseph Perschl | 1月7, 10, 13, 17, 30日, 2月10, 25日, 3 月5日, 5月4, 22日に再演。1月10日 Forti [Henrette Teimer]は体調不良 | 2:116; 6:52; 12:64, 82, 83; 17:28, 52, 120, 164, 492, 564; 19; 20:262 |
| 1月9日 | TJ, 3 幕の Schauspiel mit Gesang | Nicolas Dalayrac 作曲, D. Schmieder ま たは Joachim Perinet 独歌, <i>Azemia</i> , oder <i>Die Wilden</i> | Therese Sartory, Elisabeth Fenzl, Wenzel Swoboda, Leopold Pfeifer, Joseph Blacho, Michael Fenzl, Willar (♯) | 1月10, 11, 15, 20日, 2月3, 13日再 演。2月4日に「その2」が上演 | 2:118-9; 8:79, 147; 12:81, 82; 17:36, 40, 60, 80, 136, 176 |
| 1月12日 | TL, 3 幕の Singspiel (Oper) | Jean-Louis Solié 作曲, Matthäus Stegemeyer 作詞, <i>Das Geheimnis</i> . ^o | Sebastian Meier, Cathinka Buchwieser, Joseph Gotttdank, Johanna Demmer, Anton Hasenhub | 一部は新キャスト | 2:118; 8:79; 12:82, 105-6; 13:33, 220; 17:148 |
| 1月17日 | TK, Operette | Joseph Weigl 作曲, <i>Das Waisenhaus</i> | Ignaz Saal, Anna Milder- Hauptmann, Johann Michael Vogl, Caroline Hornick, Carl Weimmüller, Demmer d. ä. 他 | 2月7日, 4月8, 15日, 3月5日に再 演。過去にはTWでも頻繁に上演され た演目 | 2:116; 12:83; 17:388, 416; 19 |
| 1月20日 | TK, Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Carl Wiedemann 作 詞, <i>Herr von Schabel Edler von Baumschabel</i> , <i>Seiffabrikant von Kremis</i> , 初演 | Ignaz Schuster(歌), または役者) | 好評。1月23, 27日, 2月2, 9日, 3月8 日, 4月2, 14, 25日に再演 | 2:116; 6:52; 17:80, 132, 256, 268, 364, 412, 456; 19; 20:342 |
| 1月21日 | TL, 3 幕の Posse mit Gesang | Wenzel Müller 作曲, Christian Heinrich Speß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die zwölf schlafenden Jungfrauen</i> | Ignaz Schuster(歌), または役者) | 1月22, 23, 26日, 2月17日に再演。1 月22日にプロイセン国王が出席。1月 26日の再演にヨハン大公とルドルフ大 公、プロイセンの王子、ワイマールの 大公が出席。4月14日の再演にプロイ セン国王とアルベルト公爵が出席 | 2:118; 8:79; 13:220; 17:84, 88, 92, 104, 192 |
| 1月24日 | TL, 4 幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Christian Heinrich Speß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die zwölf schlafenden Jungfrauen</i> | | すでに1797年10月12日に同じ劇場 で上演。1796に <i>Die Fremden in Wien</i> の上演に関する記述あり | 2:118; 13:162, 184 |
| 1月26日 | TJ, 3 幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Joachim Perinet 作 詞, <i>Die Zaubertither</i> oder <i>Kasper der Fagottist</i> | | パス歌手の Franz Stadler 主催。1月27 日に再演 | 2:119; 8:79; 17:104, 108 |
| 1月28日 | TK, バレエ, divertissement, 1 幕, 初演 | Michael Umlauf その他作曲, ^o <i>Das Rosenfest</i> , oder <i>Der Preis der Tugend</i> [von Salency de Philidor] (Jean-Louis Aumer 振り付け) | Rosier [Jean Rozier], Julie Aumer, Theodore Aumer, Francesca de Caro, Salvatore Viganò, Viganò(♯) 他 | 1月30日, 2月6日に再演 | 2:117; 4:58; 6:72; 8:79; 10:212; 17:112, 120, 148; 19; 20:398 |
| 同上 | TJ, 4 幕の Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Christian Heinrich Speß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die Löwenritter</i> , その2 | | 1月29, 30日に再演。「その1」は12 月30日同所に上演 | 2:119; 8:79; 17:112, 116, 120 |
| 1月29日 | TL, 3 幕の喜歌劇 | Wenzel Müller 作曲, Joseph Ferdinand Kringsteiner 作詞, <i>Die schwarze Redoute</i> | | | 2:118; 17:116 |

| | | | | | |
|-------|--|--|---|--|--|
| 2月1日 | TK, 1 幕の Singspiel | Pierre Gaveaux (一部は Weigl, Spontini, Isouard, Gyrowetz)作曲, Ignaz Franz Castelli 作詞, <i>Die Strickleiter</i> | Leopold Zeltner, Theresia Tremli, Anna Bondra, Franz Dunsst, Karl von La Roche, Demmer d. j. | 2月3, 6日, 3月5, 31日, 5月27日に再演 | 4; 17:128, 356, 580; 19; 20:330 |
| 同上 | TL, 3 幕のフアン ングのための Posse mit Gesang | Wenzel Müller 作曲, Heinrich Wille 作詞, Karl Hampel パントマイム, <i>Die Bekamtschaft im Leopoldstädter Theater</i> , 初演 | Ignaz Schuster, Therese Sartory, Wenzel Swoboda, Eduard Stein | 2月2, 3, 4日に再演。2月2日の再演 にプロイセン国王が出席 | 8:147; 12:57-8; 13:37, 220; 15:113-4; 17:128, 132, 136, 140 |
| 2月4日 | TJ, 3 幕の Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Der Mohr von Semegonda</i> , その2 | | 2月5, 6, 14日に再演。「その1」は1 月9日に初演 | 8:147; 17:140, 144, 148, 180 |
| 2月9日 | TL, 2 幕の komisches Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Das Sonnenfest der Braminen</i> | | 2月10, 12, 21日に再演 | 8:147; 17:160, 164, 168, 208 |
| 2月11日 | TL, 1 幕の musikalisches Quodlibet | Franz Volkert 作曲, Joachim Perinet 作詞, <i>Der Nachfasching</i> , 初演 | | プロイセン国王が出席。2月12日に再 演 | 8:147; 13:112, 221; 17:164, 176 |
| 同上 | TW, 5 幕の tragédie lyrique | Louis-Luc Loiseau de Persuis 作曲, P.-M. Baour-Lormain 原作, Joseph von Seyfried 作詞, バレエは Jean-Louis Aumer の振 り付け, <i>Das befreyte Jerusalem</i> , 初演 | Anna Milder-Hauptmann, Theresia Tremli, Franz Wild, Carl Weinmüller, Anton Forti, Sebastian Meier, Ignaz Saal 他。L. Persuis 指揮。2月16日の上演は, Anna Milder 主催 | 初演は皇帝の誕生日で、慈善興行。2 月13, 16, 20, 23, 24, 28日, 3月6, 14, 18, 28日, 4月4, 12, 22, 28日, 5月5, 8, 18 日に再演。2月11日(市民のための慈 善興行)に[ロシアの?]皇帝妃と Maria Pawlowna 大公妃出席 | 2:118, 196-200, 423; 6:91-2, 95-6, 99-100; 8:147; 10:224, 360; 12:77-9, 85-6; 15:120, 132; 17:168, 176, 188, 196, 204, 216, 220, 236, 260, 282, 344, 372, 404, 444, 468, 496, 508, 548; 19; 20:363 |
| 2月16日 | TJ, 4 幕の Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Christian Heinrich Speiß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die Löwenritter</i> , その3 | | 2月18, 19, 20日に再演。「その2」は 1月28日同所に初演 | 8:147; 17:188, 196, 200, 204 |
| 2月23日 | TJ, 2 幕の Zauberoper | Saßenhofen 作曲, Michael Fenzl 作詞, <i>Der lustige Körbchenflechter an der Zauberquelle</i> | 4月に Mellany (♂) 出演, Willar (♂) デビュウ | 2月24, 28日, 3月13日, 4月9, 25日, 5 月8日に再演 | 8:147, 243; 17:216, 220, 236, 288, 392, 456, 508 |
| 2月26日 | TJ, 2 幕のパント マイム、仕掛 け、バレエ | Ferdinand Kauer 作曲, Karl Seeligmann 振 り付け, <i>Der Zauberer auf dem Berge Stigericks oder Arlequins Leichenitag</i> | | 2月に再演。17:228に2月26日に <i>Der Körbchenflechter</i> の上演に関する記述あ り | 8:147; 12:98 |
| 3月2日 | TK, 3 幕の Singspiel と バレ エ(tragédie lyrique) | Charles Simon Catel 作曲, Ignaz Franz Castelli 作詞, <i>Semiramis</i> ; すでに <i>Moses</i> [Ignaz Xaver von Seyfried 作曲か]に上演 された1幕のバレエは Jean-Louis Aumer 振り付け。ウィーン初演 | Franz Wild, Johann Michael Vogl, Ignaz Saal, Johann Reil, Anna Milder-Hauptmann, Anna Bondra; TW より。ダンサーは Viganó(♀), Julie/Theodore Aumer, Roster [Jean Rozier], Volange(♂) 他 | 3月16, 30日, 4月30日に再演。す で Theater and der Wien に上演(その際 は Philipp Mathias Teimer, Sebastian Meier が出演)。3月2日は Franz Wild 主催 | 2:269; 4:56; 6:122, 171-2; 8:183; 12:76, 97; 17:244, 300, 476; 19; 20:328 |
| 同上 | TJ, Schauspiel mit Gesang, 4 幕 | 作曲不詳, Johann Bornschein 原作, N. N. 作詞, <i>Antonia della Roccini, die Seeräuberkönigin</i> | | Seligmann (♂) 主催。3月4日, 5月11 日に再演 | 8:14; 17:244, 256, 520 |

| | | | | | |
|-----------|--|--|---|--|--|
| 3月4日 | Albert v. Sachsen Teschén 公爵の Augarten の劇場, opera seria | Adalbert Gyrowetz 作曲, ^a Joseph Sonnleithner 作詞, <i>Agnès Sorel</i> | Karoline Seidler-Wranitzky, Franz Wild, Johann Michael Vogl, Carl Weinmüller | 皇帝夫妻以下のお歴々全員出席。3月 27日にTKで再演, Karoline Seidler- Wranitzky がデビュー、また4月17日 に同所に再演された際 Pesth の劇場よ り Rosenfeld (♂) が出演 | 2:270, 354; 6:188, 212; 8:115, 183; 10:488; 12:137; 17:253, 340, 424; 18:159; 20:236 |
| 3月9日 | TJ, 4 幕 Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Christian Heinrich Spieß 原作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die Löwenritter</i> , その4 (大尾) | Johann August Stöger | 3月10, 12日に再演。「その3」は2 月18日同所に初演 | 8:184; 17:272, 276, 284 |
| 3月15日 | TL, 2 幕 Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Leopold Huber 原 作, Karl Friedrich Hensler 作詞, <i>Die unruhige Nachbarschaft</i> (または <i>Xaverl in der unruhigen Nachbarschaft</i>) | Johann August Stöger | | 12:124; 13:146, 221; 17:296 |
| 3月16日 | TW, 3 幕 Posse mit Gesang | Ignaz Xaver von Seyfried 作曲他, Anton Hasenhut 作詞か, <i>Niklas am Scheideweg</i> , 初演 | Anton Hasenhut, Josefme Demmer, Sebastian Meier, Müller(♀), Joseph Gottsdank 他 | 3月17, 29日, 4月2, 5, 27日, 5月12, 21 日に再演 | 2:270-1; 6:184; 8:171-2, 183; 10:368; 12:121; 17:300, 304, 364, 424, 524; 19 |
| 同上 | TJ, Schauspiel と Gemälde mit Gesang, 3 幕 | Wenzel Müller 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Godä, oder Männersinn und Weibermut</i> | | 3月17, 27日再演 | 2:272; 8:184; 13:76; 17:300, 304, 340 |
| 3月17日 | TL, 2 幕のパロディ イ・パントマ イム、からくり 等 | Franz Volkert が人気の高い既存の歌劇 とパレエ音楽を編曲, Paolo Rainoldi 振 り付け, <i>Perseus und Andromeda</i> , 初演 | Paolo Rainoldi, Angioletta Rainoldi, Karl Hampel, Brienke(Brinke) ♂, Karl Schadetzky, Michael Leberbauer | 3月18, 27, 28, 30日, 4月8, 9, 11, 13, 18, 20, 22, 23, 30日, 5月9, 10, 17, 21, 22 日に再演。3月18日にバイエルン国 王、プロイセン国王が出席。4月25, 27日にもプロイセン国王が出席 | 2:271-2; 8:148(正しくは156), 183; 12:122-3; 13:118, 221; 17:304, 308, 340, 344, 352, 388, 392, 400, 408, 428, 436, 444, 448, 456, 464, 476, 512, 516, 540, 560, 564 |
| 3月19日～26日 | 受難週(Charwoche) | と復活祭(26日)のため歌劇の上演無し | | | 8:183 |
| 3月28日 | TJ, 3 幕の lokale Posse mit Musik | Ferdinand Kauer 作曲, Joseph Alois Gleich 作詞, <i>Die Musikanten am hohen Markt</i> | Pletz(♀), Ferdinand Raimund, Kistler(♀), Louise Gleich, Karl Meyer | 3月29日, 4月1, 2, 4, 10, 14, 18, 22, 24, 26日, 5月2, 4, 9, 12, 17, 22, 27日に再 演 | 2:272, 356; 8:184; 12:133-4; 17:344, 348, 360, 364, 372, 396, 412, 428, 444, 452, 460, 484, 492, 512, 524, 540, 564, 580 |
| 3月29日 | TL, 2 幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Joachim Perinet 作 詞, <i>Das Neu-Sonntagskind</i> | Joseph Rotter, Ignaz Schuster, | プロイセン国王が出席。17:352に <i>Die junge Weisheit</i> 上演に関する記述あり | 12:137; 13:114, 221 |
| 3月31日 | TL, 2 幕の Singspiel | Wenzel Müller 作曲, Philipp Hafner 原作, Joachim Perinet 作詞, <i>Die Schwestern von Prag</i> | Johann August Stöger | プロイセン国王が出席。5月18日再演 | 13:134, 221; 17:548 |
| 4月1日 | TK, 3 幕の Singspiel, | Nicolas Isouard 作曲, Charles- Guillaume Étienne 原作, Joseph von Seyfried 作詞, <i>Joconde</i> , oder <i>Die Athenheuer</i> , ウィーン初演 | Karoline Seidler-Wranitzky, Forti [Henriette Teimer], Theresia Tremli; Anna Bondra, Franz Wild, Anton Forti, Sebastian Meier 他 | 4月2, 6, 24日, 5月5, 10, 20日に再演 | 2:353, 423; 4:56; 6:366; 8:211- 2, 243; 10:488; 12:161-2; 15:184; 17:360, 380, 452, 516, 556; 19 |
| 4月5日 | TK, 4 幕の tragisches Singspiel | Christoph Willibald Gluck 作曲, <i>Iphigenie auf Tauris</i> ; 挿入のパレエ | Anna Mildner-Hauptmann, Johann Michael Vogl, Julius Radtchi, Carl Weinmüller 他 | 4月13, 23日, 5月6日に再演 | 6:232; 15:171-2; 17:376, 408, 496; 19 |

| | | | | | | |
|---------------------|--|--|--|--|---|---|
| 4月6日 | TJ, 5 幕の Ritterschauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, <i>Georg von Adelsburg</i> | | | Ruzi[c]zka (♂) 主催。4月7, 12日再演 | 2:355; 17:380, 384, 404 |
| 4月7日 | TW | W. A. Mozart 作曲, <i>Le nozze di Figaro</i> | Carl Weimüller (Figaro), Cathinka Buchwiese (Susanna), Forti [Henriette Teimer] (Cherubino) 他 | | 音楽はすばらしい、大喝采 | 2:354; 15:167; 17:384; 19 |
| 4月11日 | TK, 3 幕の Singspiel とバレ エ | Nicolas Isouard 作曲, Charles-Guillaume Étienne 原作, Joseph von Seyfried 作詞, <i>Alamon, Fürst von Catanea</i> , 初演 | Cathinka Buchwieser, Franz Wild, Anton Forti 他; Aumer 姉妹, [Francesca] de Caro, Viganó(♀), Rosier [Jean Rozier] 等 | | 4月11, 16日に再演。4月11日は Buchwieser 主催 | 2:353-4; 4:56-57; 6:188, 232; 8:243; 17:400, 420; 19; 20:238 |
| 同上(また は15日 か) | TL, 3 幕の Singspiel | Franz Volkert 作曲, Michael Fenzl 作詞, <i>Der Tiroler-Kaspar und seine Liesl-Mahm</i> , oder <i>Die Räuber im Pustertale</i> 初演 | Katharina Schätzl, 後 Therese Sartory, Michael Fenzl | | この演目に将来性がない。付属の子供バンドマタイム <i>Zauberkörbe</i> も上演。4月16, 17日に再演 | 2:355; 8:243; 12:151, 163-4; 17:420, 424 |
| 4月13日 | TJ, 2 幕の Posse mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, <i>Der Bratelbrater und sein Geldkasten</i> , oder <i>die Zusammenkunft in Eipeldau</i> | | | | 2:355; 8:243; 17:413 |
| 4月15日 | TJ, 4 幕の演劇 | 付随音楽は Ferdinand Kauer 作曲, Friedrich Ludwig Zacharias Werner 原作 <i>Atila, König der Hunnen</i> , 初演 | | | 4月15, 16, 17日, 5月10日に再演 | 8:243; 17:416, 420, 424, 516 |
| 4月18日 | TW, 3 幕の英雄 的大歌劇 | Antonio Salieri 作曲, <i>Rajmyra</i> | Teimer 父, Antonia Campi, Franz Wild, Anton Forti, Sebastian Meier 他 | | 13年ぶりの上演。4月18, 19, 20, 26, 30日, 5月2, 15, 16日に再演。4月18日の上演は Meier 主催 | 2:355; 6:200; 8:215-6, 243; 17:428, 432, 436, 460, 476, 484, 532, 536; 19 |
| 4月20日 | TL, 2 幕の Singspiel | Jakob Haibel 作曲, Emanuel Schikaneder 作詞, <i>Der Tiroler Wasil</i> | Clara Rothe, Knerlé (♂) ベストの劇場から) | | プロイセン国王が出席。17:436に <i>Das Brautpaar in der Theatergarderobe</i> の上演に関する記述あり | 8:243; 2:164; 13:221 |
| 同上 | TJ, 3 幕の romantische komische Zauberoper | Ferdinand Kauer 作曲, <i>Die Macht des Schicksals</i> , oder <i>Männertreue auf der Probe</i> | | | Ferdinand Kauer 主催。4月21, 23日に再演 | 2:355-6; 8:243; 17:436, 440, 448 |
| 4月27日 | TJ, 2 幕の komisches Singspiel | Vincenc Tucek 作曲, Ritter von Steinsberg 作詞, <i>Hanns Dachel</i> , oder <i>Der Bräutigam von Kabran</i> | | | Therese Reisinger 主催。4月28日再演 | 2:356; 17:464, 468 |
| 4月29日 | TK, 歌劇, 2 幕の 歌劇 | Ferdinando Paër 作曲, <i>Sargines</i> , oder <i>Der Triumph der Liebe</i> | Karoline Seidler-Wranitzky, Antonia Campi, Johann Michael Vogl, Ignaz Saal, Julius Radtich 他 | | 5月1, 7, 28日に再演。以前にもロブコウィツ宮殿で上演 | 2:117, 354; 12:86; 17:472, 480, 504, 584; 19; 20:323 |
| 同上 | TJ, 3 幕の romantisches Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, <i>Die Banditen in Venedig</i> | | | 4月30日, 5月1日に再演。14:472, 476に <i>Die Bedienten in Venedig</i> とある | 8:243; 17:472, 476, 480 |

| | | | | | |
|------------|---|--|---|---|--|
| 5月12日 | TL, 1幕のPosse mit Gesang | Wenzel Müller 作曲, Adolf Bäuerle 作詞, <i>Maria Stuegartin</i> , 初演 | Anna Gottlieb, Wenzel Swoboda, Anton Schuster, Michael Fenzl, Gottfried Ziegelhauser, Therese Sartory, Katharina Kicker (Kiker) | Anna Gottlieb 主催。5月13, 14日再演。Schiller 作詞の <i>Maria Stuart</i> のパロディ。5月13日の際にプロイセン国王が出席。聴衆は不満を表す | 2:423; 8:284; 12:185; 13:108, 222; 17:524, 528, 532 |
| 同上 | TL, 1幕のバントマイム | Franz Volkert 作曲, Karl Hampel 作詞, Paolo Rainoldi 振り付け, <i>Der Schiffbruch</i> , oder <i>Die Rettung zur rechten Zeit</i> , 初演 | Paolo Rainoldi, Angioletta Rainoldi, Karl Schadetzky | Anna Gottlieb 主催。5月13, 14, 19日再演。5月13日の際プロイセン国王が出席 | 12:185; 13:129, 222; 17:524, 528, 532, 552 |
| 5月13日 | TK, 3幕バントマイムのバレエ | Adalbert Gyrowetz 作曲(一部は Charles Simon Catel の歌劇より), Ignaz Franz Castelli 翻訳, Jean-Louis Aumer 振り付け, <i>Die Bajazeten</i> , 初演 | Theodore Aumer, Roster [Jean Rozier], Julie Aumer, Viganò(♀), [Amuseca] de Caro, Jean-Louis Aumer | 5月16, 19, 22, 27, 30日に再演。1813年10月14日 TK 初演された同名のオペラによる | 2:422-3; 4:58; 6:262; 8:283; 10:536; 12:201-2; 17:528, 536, 552, 556, 580, 592; 19; 20:362 |
| 5月15(16か)日 | TJ, 5幕の Schauspiel mit Gesang | Ferdinand Kauer 作曲, Karl Meisl 作詞, <i>Wilhelm Griskircher, der edle Wiener</i> | Karl Kindler, Max Neukäufer, Friedrich Wilhelm, Willar (♂), Seucher (♀), Ruziczka (♂), Carl Seelgmann, Ferdinand Raimund | 5月20日に再演 | 8:284; 12:194+5; 17:556 |
| 5月17日 | TL, 1幕の Singspiel | Johann Friedrich Stein 作曲, August von Kotzebue 原作, <i>Die gefährliche Nachbarschaft</i> | Anton Schuster, Anna Gottlieb | 5月19, 20, 21日に再演 | 8:284; 12:193-4; 17:540, 552, 556, 560 |
| 5月20日 | TL, 1幕の dramatische Kleinigkeit in Versen | Carl Friedrich Ebers 作曲, <i>Gefunden</i> | Eduard Stein, Therese Sartory, Ignaz Stahl, Eleonora Swoboda | 5月22, 24日に再演 | 8:284; 12:194; 17:556, 564, 572 |
| 5月23日 | TJ, 2幕の heroisch-komische Zauberoper | Johann Baptiste Henneberg 作曲, <i>Holga, die Königin der Krystallengebirge</i> , oder <i>Die flatterhaften Liebhaber</i> | | Louise Gleich 主催。5月24, 26, 28日に再演 | 8:284; 17:568, 584 |
| 5月24日 | TK, 3幕の Singspiel | Joseph Weigl 作曲, Johann Anton Friedric Reil 作詞, <i>Der Bergsturz bei Goldau</i> , 初演 | Carl Weimüller, Cathinka Buchwieser, Anna Karl, Johann Michedl Vogl 他 | | 2:423; 8:283; 15:188; 17:572; 19; 20:248 |
| 5月31日 | TL, 2幕の Posse mit Gesang | Franz de Paula Roser 作曲, Wilhelm Schmidt 作詞, <i>Xaver's Schelmereyn</i> | Johann August Stöger, Anton Schuster, Katharina Schätzl, Joseph Rotter | | 8:284; 12:203 |

出典 TKの演目の上演日とタイトルは以下の(4)に年月順で掲載されているため個別に明記しなかった。それ以外の情報は 1= *Allgemeine musikalische Zeitung* (1814年); 2= *Allgemeine musikalische Zeitung* (1815年); 3= *Wiener Hof-Theater Taschenbuch auf das Jahr 1815*; 4= *Wiener Hof-Theater Taschenbuch auf das Jahr 1816*; 5= *Der Sammler* (1814年); 6= *Der Sammler* (1815年); 7= *Friedensblätter*, Bd. 1 (1814年); 8= *Friedensblätter*, Bd. 2 (1815年); 9= *Morgenblatt für gebildete Stände*, Bd. 8 (1814年); 10= *Morgenblatt für gebildete Stände*, Bd. 9 (1815年); 11= *Wiener Theaterzeitung (Bäuerles Theaterzeitung)* (1814年); 12= *Wiener Theaterzeitung (Bäuerles Theaterzeitung)* (1815年); 13= Rudolph Angermüller, *Wenzel Müller und "sein" Leopoldstädter Theater*; 14= *Recensionen und Mittheilungen über Theater und Musik* (1860年); 15= Carl Bertuch, *Carl Bertuchs Tagebuch vom Wiener Kongreß*; 16= *Wiener Zeitung* (1814年); 17= *Wiener Zeitung* (1815年); 18= *Feyerlichkeiten bey der Rückkehr Sr. Maj.*; 19= *Theaterzettel (Österreichische Nationalbibliothek)*; 20= Michael Jahn, *Die Wiener Hofoper von 1810 bis 1836*. TLが1814年9月から1815年8月まで手掛けた新しいプロダクション、デビューを果たし

た役者、ゲストとして舞台を踏んだ役者の名前などは1816年刊の *Taschenbuch vom k. priv. Theater in der Leopoldstadt*、11-13頁に列挙されているが、月日などは明記されていない。また OP=Das Opernprojekt (<http://www.oper-um-1800.uni-koeln.de/>)にも多くの情報が掲載されている。

^a ダンサーの Francesca de Caro (1784年~1819年)の妹であった Magdalena de Caro (1788年~1816年)は1805年劇場の台本と演出監督であった Georg Friedrich Treitschke と結婚した。

^b Antoinette Pfeiffer(Pfeifer)はパリで軒轅を積んだ後、ミュンヘンの劇場の第一バレリーナとして活躍した。5:828 と Christian Müller, *München unter König Maximilian Joseph I*, Bd. 2, 645頁参照。以下の Elise Pfeiffer とは別人。Jean François Rozier (1791年~1861年)は後に Theodore Aumer と結婚。Carl Aichinger は1791年生まれで1837年没した。

^c Anna Maria Neumann については5:744, 8:251参照。

^d Demmer 家には Carl Ignaz (1766年~1824年以降)と Christian Joseph (1772年~1835年)の兄(d.ä)と弟(d.j)が共に歌手として同じ時代にウィーンで活躍し、前者は TK、後者は TW に所属したようである(I. F. Castelli, *Memoiren meines Lebens*, Bd. 1, 243-244頁参照)。しかし、11月5日の上演に「Demmer 弟の代わりに Demmer 兄」(11:506)ともあるように、また同じ上演に2人が出ることもあった。なお、Josefine Demmer (1795年~1863年)、Johanna Demmer (1784年~1862年)、Thekla Demmer (?~1832年)の姉妹も歌手でまぎらわしい。 *Großes Sängertextikon*, 第4巻1097頁の家系図を参照。

^e この時期に女性歌手の Höngig, Buchwieser, Forti は体調不良で出演なし(5:744)。

^f Elise (Elisabeth) Pfeiffer はリンツの劇場のソプラノ歌手(4:63, 6:12; 11:588; 12:63)であり、父親も歌手であった(2:114-115)。少なくとも1830年代まではウィーンで活躍したようである。

^g 原作の *Nina: La folle par amour* とは1786年パリで初演されたフランス語の1幕の opéra-comique (Nicolas Dalayrac[1753年~1809年]作曲、Benoi-Joseph Marsollier 作詞)、その後、同じ題材は1789年に Ignaz von Beecke[1733年~1803年]作曲、Graf Spaur 作詞 *Nina: Wahnsinn aus Liebe* としてウィーンに上演され、Aumer のパレエはどのヴァージョンによるのかは定かでない。1814年11月14日ピアノのための抜粋6曲はウィーンで Steiner 社より出版された(16:1269, 1277)。

^h テノールの Franz Wild (1791年~1860年)は当時 TK 兼 TW のメンパー (3:58, 14:54参照)。Wild の自伝は14:29-30, 53-56, 68-71, 83-86, 100-106, 123-124 に連載されており、174頁にはレパトリーの目録あり。

ⁱ Buchwieser については11:481-482, 501-502など参照。

^j このパレエのウィーンにおける1812年の上演については *Der Sammler*, 第5巻, 48頁参照。

^k *Journal de Paris* (1809年8月28日号, 1784頁他)によれば Antonin はボルドーの大劇場の第一ダンサーであった(premier danseur du grand théâtre de Bordeaux)。

^l Deville (名不詳)は1815年1月ロコマからウィーンに参り (*Königlich-Baierischer Polizey-Anzeiger*, 1815年, 57頁)、パリとロンドンのイタリア歌劇団のメンパーであった。

^m ウィーンで活躍したパレエダンサー・振り付師 Salvatore Viganò(1769年~1821年)の有名な妻 Maria Medina (1769年~1821年)または彼の妹の Celestina であろう。

ⁿ Paolo Rainoldi (1781年~1853年)はミラノに生まれ、とくに道化役(Grotesktänzer)として名声を得た。1804年以降はウィーンに活躍。1815年には TL のメンパーであった。

^o 1796年パリで初演された *Le Secret* と題された喜歌劇(opéra comique)である。1808年ウィーンにて *Das Geheimnis* としてドイツ語版で上演された。

^p Michael Umlauf の音楽は同人が以前作曲したパレエ *Paul und Rosette* から転用。

^q 8:115では作曲が「Pär」(Ferdinando Paër)とされているが、間違っているであろう。

^r 役者と劇作家の Reil (1773年~1843年)については、Susan Youens, *Schubert's Late Lieder*, 301-308頁参照。

たマティアス・ペルト (Matthias Franz Perth, 1788年～1856年) の日記にも報告されている。ペルトによれば、貴族たちは食後宮殿劇場へ向い、宮廷劇場専属の歌手たちによる『シンデレラ』(Cendrillon, 独名 *Aschenbrödel*) が上演され、この興行のために工夫されたバレエも付け加えられた。⁵ 『シンデレラ』とはフランス人のN. イズアール (Nicolas Isouard, 1775年～1818年) 作曲のオペラで、ヨーロッパ中に高い人気を誇り、同じ題材が1817年ロッシェニにも取り上げられた。観劇した会議の要人たちは、その後華麗な仮面舞踏会に参加し一日を終えた。同年3月4日には似たようなパレードが再度行われ、ただ今度は櫓が34台の馬車に代わり、午後3時より群集が並ぶ市道で宮殿 (Burg) の広場からアウガルテン (Augarten) まで進行した。アウガルテンにはアルベルト・フォン・ザクセン＝テシエン公爵 (Albert v. Sachsen Teschen, 1738年～1822年) がこのイベントのために建設した小劇場があり、会議の出席者たちとその同伴者はそこへ入場した。当日の出し物はウィーンのパラ界に大活躍した作曲家のA. ギロヴェッツ (Adalbert Gyrowetz, 1763年～1850年) 作曲の『アグネス・ソレル』(*Agnes Sorel*, 1806年初演) であり、夜9時頃に松明を灯した馬車の行列が市の中心部に戻った。⁶

娯楽として、貴族たちは演劇とオペラの抜粋を仲間のためにも自ら演じた。1814年12月9日にその1回目が大仮面舞踏会場 (Großer Redoutensaal) に特設された劇場で行われ、片面にはステージがあり、反対面には大きな可動式の舞台絵が展示できるスペースが設けられた。ウィーン会議の「六美人」の2人と数えられた Maria Theresia, Prinzessin von Thurn und Taxis (1794年～1874年) と Sophie Zichy-Vásonykeö (1790年～1865年) を含む、貴族12人が出演した。⁷ 高位の観客たちが入場すると、G. スポンティーニ (Gaspere Spontini, 1774年～1859年) 作曲の歌劇『ラ・ヴェスタール』(*La vestale*, 独名 *Die Vestalin*, 1807年パリ初演、1810年11月12日ケルントナートーア劇場でウィーンに初上演) の序曲が演奏され、舞台絵の前に演じられたシーンを観た後は劇場の舞台に目を向け素人の女性たちなどの演技を楽しんだ。休憩時間には小仮面舞踏会場 (Kleiner Redoutensaal) に様変わりした「オレンジリー」へ行き、種々の珍味を飲食した。このような演劇、オペラの抜粋、バレエなどを含む気晴らしイベントは、その後12月20日と22日、1815年2月22日と27日、3月7日と18日など何度も行われ、皇帝以下の人々が出席して男女の役者に拍手を送った。⁸

市民に公開された劇場

会議が開催された当時、ウィーンを中心部とその郊外において市民が入場券の購入によって観劇できる劇場は5軒 (オペラなど4軒の他に演劇専用1軒) あり、そのうち2軒は政府直属の施設であった。⁹ 現在のミヒャエラ広場 (Michaelerplatz) に位置し、約1,200人が収容可能であったブルク劇場 (Burgtheater) は、専ら演劇を上演した。そして1709年に創立し、1761年の火事の後に再建されたケルントナートーア劇場 (Kärntnertheaterまたは Theater am Kärnthnerthor) は現在のホテル・サッハー (Philharmonikerstraße 4) 付近にあり、主に歌劇を舞台にかけた (図1)。両劇場は行政上ドイツ演劇、ドイツ歌劇、バレエの3部門に分かれ、役者などが両舞台に出演することがあった。専属の役者と歌手の給料は、男性は年間2,000fl、女性は1,600flを上限とし、終身雇用もあったが、ソロ・ダンサーは全員契約雇用で、1,000flから1,200flの報酬を得た。役者20人から25人、オペラ歌手は男女各10人から12人、

⁵ Perth, *Tage-Buch*, 1815年1月22日の項。また *AmZ*, 17巻7号 (1815年2月15日) 117頁。 *Friedensblätter*, 1815年1月24日 (10号)、40頁; 同1815年1月26日 (11号)、44頁。 *Feyerlichkeiten*, 139頁もその詳細を報道している。

⁶ *AmZ*, 17巻16号 (1815年4月19日)、270頁。 *Friedensblätter*, 1815年3月9日 (29号)、115-116頁。 *Feyerlichkeiten*, 155-159頁。

⁷ *Feyerlichkeiten*, 119頁。 *Friedensblätter*, 1814年12月15日 (72号)、296頁; 1815年1月10日 (4号)、15-16頁; 1815年2月16日 (20号)、80頁など参照。

⁸ *Feyerlichkeiten*, 124-128, 148-155, 159-163, 164-166頁。 *Friedensblätter*, 1814年12月27日 (77号) 316頁; 1815年3月2日 (26号)、104頁。 Perth, *Tage-Buch*, 1815年2月23日項など参照。

⁹ 5軒の劇場の所在地、入場料などについては Alice M. Hanson, *Musical Life in Biedermeier Vienna*, 61-64頁も参照。

合唱団員40人(男性24人、女性14人、少年12人)、ソロ・ダンサー22人、オーケストラ団員70人程度、他のスタッフをあわせれば雇用者は合計約331人となった。¹⁰

この2つの劇場をもう少し詳しくみてみよう。1741年宮廷劇場として出発したブルク劇場は、1776年にヨーゼフ2世により「ブルクの隣の国民的劇場」(Nationaltheater nächst der k.k. Burg)と定められ、1794年以降には「ブルクの隣の王宮劇場」(k.k. Hoftheater nächst der Burg)と呼ばれるようになった。¹¹ ドイツ演劇を涵養する国民劇場としての役割を担い、上演された演目には国民の楽観的態度の育成が期待されたため、当時の出し物は全てにハッピーエンドが付せられた。18世紀後半にはグルック、サリエリ、モーツァルトなどの歌劇、また1800年にはベートーヴェンの交響曲第1番などもここで初演されたが、1810年にパルフィ伯爵(Ferdinánd Pálffy von Erdöd, 1774年～1840年)が宮廷劇場を支配するようになると、合理化が図られ歌劇の上演はブルク劇場から消えた。当然演劇の幕間には音楽が奏でられたが、評論家はその選曲を批判し、「台本の質が悪かったために不成功に終わったJ. ワイグル(Joseph Weigl, 1766年～1846年)、J. N. フンメル(Johann Nepomuk Hummel, 1778年～1837年)、ギロヴェッツらによる作曲のオペラには美しい音楽が多く含まれているにもかかわらず、なぜブルク劇場の幕間にあれほどの聴き苦しい曲が演奏されるだろうか。廃止すべきである」などと不平を洩らした。¹²

ウィーン市民は演劇を支持したが、以上にも引用したライツェンシュタインによれば、「皆が通常オペラの上演に示す熱意は、演劇上演には見られない」そうである。¹³ 綺麗なアリアの演奏には聴取が静まり返るものの、演劇で感動するはずの悲劇的な場面では、聴衆は黙らずうるさい。それでも会議の国内外の参加者には演劇好きの者も含まれ、彼らはブルク劇場を訪れ、また貴族も素人役者としてオーストリア皇帝が提供する場で活躍し積極的に演劇を楽しんだ。¹⁴ しかし、ドイツ語を習熟していない外国からの会議出席者はやはり音楽が主役を演じる歌劇、ジングシュピール、バレエなどに傾倒した。彼らは好んで1814年から1815年のウィーンの歌劇界の中心であったケルトナートーア劇場に足を運び、名歌手とダンサーの演技を堪能した。劇場の音楽監督(Kapellmeister)はサリエリ、ワイグル、ギロヴェッツ、M. ウムラウフ(Michael Umlauf, 1791年～1842年)の4人であった。台本と演出の責任者はG. F. トライチケ(Georg Friedrich Treitschke, 1776年～1842年)で、バレエの振り付けはフランス人のJ. L. オマー(Jean-Louis Aumer, 1774年～1833年)が担当し、劇場に男女18人のソロ・ダンサーが定期的に出演した。¹⁵

さて、1814年から1815年のウィーンには政府附属の劇場以外にも民間経営の劇場が3軒あった。その筆頭は1801年に興行師のE. シカネーダー(Emanuel Schikaneder, 1751年～1812年)が創立したアン・デア・ウィーン劇場(Theater an der Wien)であり(図2)、建物としてももっとも豪華なものであった。この劇場オーケストラのコンサート・マスターを勤めたのはヨーロッパ中にその名を轟かせた作曲家

¹⁰ Johann Pezzl, *Beschreibung von Wien* (第4版、1816年)、291-292頁。ケルトナートーア劇場の経営、監督、レパートリー、オーケストラ、大道具、歌手などの詳細についてはMichael Jahn, *Die Wiener Hofoper von 1810 bis 1836*, 15-74頁参照。

¹¹ 18世紀後半のブルク劇場の経営については大塩量平「18世紀後半ウィーンにおける「劇場市場」の形成」参照。

¹² *Wiener Theaterzeitung*, 7巻138号(1814年12月17日)、580頁。

¹³ Karl von Reitzenstein前掲書、344頁。ウィーン会議の頃のウィーン演劇文化の概略にはHugo Wittmann, “Wiener Theater zur Zeit des Congresses”参照。

¹⁴ 高位の方々がブルク劇場を訪れたことについては*Friedensblätter*, 1814年9月29日(39号)、162頁参照。あるいは1814年10月10日にはE. クリンゲマン(Ernst August Klingemann, 1777年～1831年)作の「演劇的な詩」の『モーゼス』(*Moses*)とそれに挿入されたイグナツ・サイフリード作曲のバレエが外国要人などのためにアン・デア・ウィーン劇場で上演された(*Feyerlichkeiten*, 66頁)。さらに1814年12月17日よりレオポルドシュタット劇場(Theater in der Leopoldstadt)にてA. ボイエレル(Adolf Bäuerle, 1786年～1859年)作『ウィーンに来た外国人』(*Die Fremden in Wien*)の3幕の庶民的な喜劇が数回上演され、1815年2月14日の再演にはバイエルン国王マクシミリアン1世と王妃が、1815年2月25日にもカール大公、オルデンブルク大公妃、ワイマール大公妃、プロイセン国王が訪れた(*Friedensblätter*, 1815年1月14日[6号]、23頁; *Wiener Theaterzeitung*, 7巻143号(1814年12月7日 *Ergänzungsblatt*, 573-575頁、585-586頁; Rudolph Angermüller, *Wenzel Müller und “sein” Leopoldstädter Theater*, 68, 221頁参照)。

¹⁵ *Wiener Hof-Theater Taschenbuch auf das Jahr 1816*, 3-4頁に全員の名前が見られる。ウィーン会議の時期のケルトナートーア劇場とその自由についてはIgnaz Franz Castelli, *Memoiren meines Lebens*, 220-229頁が詳しい。この劇場のその直後の歴史については*Mittheilungen aus Wien* (1833年、第2巻、95-108)参照。この劇場におけるこの時代の文化的役割についてはMichael Jahn, 前掲書参照。



図1 ケルントナートーア劇場。Tranquillo Mollo (1767年～1837年)画(銅板)。右には市壁の一部が見られる。

でヴァイオリンの名手L. シュポーア (Louis Spohr, 1784年～1859年)であった(1813年～1815年)。各プロダクションの指導と責任は複数の者に分担され、演出は主にS.マイヤー (Sebastian MeyerまたはMayer, Meierなど、1773年～1835年)が担当し、台本の編集・翻訳、曲の編曲などにはサイフリード兄弟(作曲家のIgnaz v. Seyfried [1776年～1841年]と作家のJoseph v. Seyfried [1780年～1849年])が主軸となった。¹⁶

政府直属の劇場の経営が行き詰まる1806年に、パルフィ伯爵とロプコヴィッツ公爵 (Franz Joseph Maximilian Fürst von Lobkowitz, 1772年～1816年)を含む貴族9人からなるグループが宮廷劇場経営委員会 (Hoftheater-Unternehmensgesellschaft)を結成し、巨額の120万fl.を劇場に出資した。しかし、劇場の経営は再度行き詰まり、1813年10月1日にパルフィ伯爵がアン・デア・ウィーン劇場を購入し、ロプコヴィッツ公爵が大きな影響力を持つケルントナートーア劇場と切磋琢磨し、両劇場はウィーンのおペラ界の双壁となった。¹⁷ところが、2つの劇場のオーケストラを同時に維持できるほどの演奏者はこの都市では不足していたため、両劇場はある程度の役割分担を余儀なくされた。¹⁸その結果、多くの歌劇の初演はケルントナートーア劇場で行われ、演劇に力を注ぐアン・デア・ウィーン劇場の専属歌手も1814年5月1日以降ケルントナートーア劇場をも兼任するようになる¹⁹両劇場はこのような統一

¹⁶ アン・デア・ウィーン劇場とその関係者についてはCastelli前掲書、229-246頁が詳しい。MeyerとSeyfried兄弟などについては同書、240-241頁参照。劇場の長い歴史についてはAnton Bauer, *150 Jahre Theater an der Wien*参照。

¹⁷ *Morgenblatt*, 1815年3月13日(61号)、244頁。パルフィ伯爵が残した劇場経営に関する多くの記録はKarl Glossy, *Die Geschichte der Theater Wiens*, 第1巻に引用されている。

¹⁸ 一流の歌手とオーケストラ団人の慢性的な不足についてはJohann Friedrich Reichardt, *Vertraute Briefe*, 第1巻、368-369頁を参照。

¹⁹ *Recensionen und Mittheilungen über Theater und Musik*, 54頁; *AmZ*, 17巻7号(1815年2月15日)、117頁などを参照。

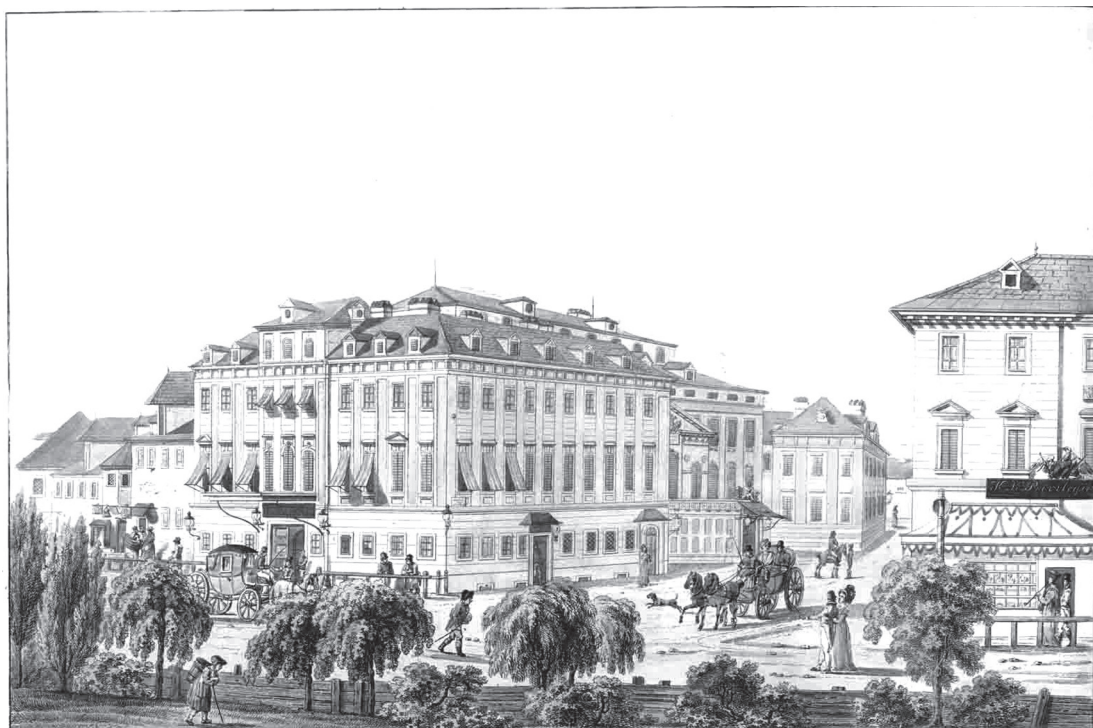


図2 1815年のアン・デア・ウィーン劇場（左）の様子。Jakob Alt（1789年～1872年）画。

を果たした後、基本的にパルフィ伯爵が両方を監督するようになった。

ウィーンには「庶民劇場」(Volkstheater) と呼ばれた施設が郊外に2軒あり、各軒の収容人数はアン・デア・ウィーン劇場の半数程度であった。そのひとつは1788年に創立され、1814年春には小規模な改築・増築を経て、今もなお営業を続けているヨーゼフシュタット劇場 (Theater in der JosephstadtまたはJosephstädter Theater, 現在の8区) であった。1815年前後にはJ. フーバー (Joseph Huber) が経営責任者で、彼は積極的に数々のジングシュピールを手がけた。「軽い」ジャンルの上演で知られているヨーゼフシュタット劇場は、評論家の間には評判はそれほど高く無かったが、市民の多くに支持された。²⁰

もう1軒は現存しないが、1781年に現在のウィーン2区に建設されたレオポルドシュタット劇場 (Theater in der LeopoldstadtまたはLeopoldstädter Theater) であった。1815年前後、作曲家で指揮者のW. ミュラー (Wenzel Müller, 1767年～1835年) とその補佐であったF. カウエル (Ferdinand Kauer, 1751年～1831年) あるいはF. フォルケルト (Franz Volkert, 1778年～1845年) が、次々と新しいジングシュピールやドタバタ喜劇などを舞台に載せた。作品の多くはこの三人が作曲している。1815年の事情を記録する年鑑を見てみると、劇場の総監督はC. F. ヘンスラー (Carl Friedrich Hensler, 1759年～1825年) である。数多くの役者とバレエの踊り手に加えて、12人のオペラ歌手と20人の合唱団員が雇用された。オーケストラにはヴァイオリン奏者7人、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、オーボエ、フルート、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット各2人などから構成されていた。²¹ この劇場の「名前をあげるだけでも恥ずかしい」と考えた評論家は少なくなく、演奏家と役者が事のほか下手で、上演される演目を限りなく下品と判断した場合があった。しかし、この劇場は特に未婚の女性たちに人気が

²⁰ Pezzl前掲書、296頁。ヨーゼフシュタット劇場については例えば *Mitteilungen aus Wien*, 1833年、第3巻、36-43頁; Castelli前掲書、266-268頁; Ferdinand Ritter von Seyfried, *Rückschau in das Theaterleben Wiens seit den letzten fünfzig Jahren*, 120-126頁, 313-314頁, 317-319頁も参照。

²¹ *Taschenbuch vom K. K. priv. Theater in der Leopoldstadt* (1816年)、5-10頁。

絶大であったといわれ、支持層は実は以外に厚かった。²²

以上5軒の特徴的な劇場には、経営面の共通性もあり、上演された演目に関して相互的な影響が認められる。すでに触れたボワエルデュー作曲の喜歌劇『パリのジャン』の上演事情がその好例である。²³ この作品はウィーンでは1812年8月28日にケルトナートーア劇場で初上演を経験し、早くも同年11月28日にはF. ローゼル (Franz de Paula Roser, 1779年～1830年) 作曲、J. A. グライヒ (Joseph Alois Gleich, 1772年～1841年) 作詞の『パリのジャン』のパロディである『ヨハン・フォン・ウィーセルブルク』 (*Johann von Wieselburg*) がヨーゼフシュタット劇場で舞台にかけられ、ボワエルデューの作品の人気に便乗した。²⁴ また翌年4月3日以降にもこのパロディーはレオポルドシュタット劇場でも上演され、観客を楽しませた。1813年3月にはボワエルデューの歌劇の新たなパロディーである作曲者不詳の『パリーゼル小路のヨハネス氏』 (*Der Herr Johannes im Parisergassel*; パリーゼル小路 [Parisergasse] とは1区の通り名) がレオポルドシュタット劇場で催された。²⁵ ウィーン会議中でもオリジナルの『パリのジャン』が1814年11月にアン・デア・ウィーン劇場の舞台上で上演され、成功したせいも、同月にケルトナートーア劇場の舞台をも飾った。このように、ウィーンにおいて政府直属の劇場と民間劇場との間には競争と共存の両面を持つ一種のゆるやかな共同体が成立し、それが舞台芸術の世界を発展させる要因の一つとなった。しかしそれがために、強い競争と互いの行動の絶え間ない監視により、同じ出し物が繰り返し上演され、聴衆を退屈させる一面も醸し出したことは否定できない。²⁶ (続く)

²² Carl Küttner, *Reise durch Deutschland*, 第3巻、396頁; *Miszellen für die neueste Weltkunde*, 第7巻、第26号 (1813年3月31日)、104頁。レオポルドシュタット劇場の成立と発展については *Mittheilungen aus Wien*, 1834年、第2巻9-34頁; Leopold Matthias Weschel, *Die Leopoldstadt bey Wien*, 518-521, 559-567頁; Castelli 前掲書、246-266頁; Seyfried 前掲書、47-53頁; Franz Hadamowsky, *Das Theater in der Leopoldstadt von 1781 bis 1860*; Angermüller 前掲書なども参照。

²³ この作品のウィーンにおける上演に関しては Carolyn Kirk, *The Viennese Vogue for Opera-comique*, 第2巻、609-618頁は詳しい。

²⁴ 『ヨハン・フォン・ウィーセルブルク』は当たりを取りヨーゼフシュタット劇場の経営に大きく貢献したようである。Glossy, 前掲書、239頁参照。

²⁵ *AmZ*, 15巻11号 (1813年3月17日)、194頁; *Miszellen für die neueste Weltkunde*, 7巻26号 (1813年3月31日)、104頁。

²⁶ *Morgenblatt*, 1814年12月10日 (295号)、1180頁を参照。

